

# ワイヤーメッシュ柵の更新に向けた設置ルートの改善計画

## しらき 仙台市白木地区



### 地区の概要

- ・16世帯（営農者は7世帯、他9世帯は家庭菜園）。
- ・中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払交付金の活動。
- ・月に1回の寄り合いがある。
- ・イノシシ、ニホンザル、ツキノワグマ、ハクビシンなど、様々な野生動物が出没しているが、今回の対策計画はイノシシが対象。
- ・平成21年度に約10kmのワイヤーメッシュ柵を設置。令和6年度に更新を迎える。

### 取り組み前の状況

#### ● 環境

- ・七北田ダムの上流側に位置し、四方を山に囲まれている。
- ・白木地区は北谷地、中白木、菖蒲沼、長沼、菅谷地の5つの小集落と、原山と呼ばれる圃場地帯で形成されている。
- ・ワイヤーメッシュ柵を設置した当時と比べて、営農面積が縮小している。



周囲を山に囲まれた圃場



耕作放棄地



集落内のイノシシの痕跡

#### ● 被害と対策

- ・設置当時は、3戸以上の条件を満たすなどを考えて、広域に山際の斜面や林内に設置したが管理が大変だったため、今度は管理のしやすさを重視したい。
- ・イノシシ対策でワイヤーメッシュ柵を外周に設置し、サル対策として畑作物圃場に電気柵を設置したいと考えている。
- ・様々な資材で修復した跡や、ワイヤーメッシュを斜めに立てかけた補強が見られるなど、維持管理はこまめに行なっているが、圃場面積に対して設置距離が長いために間に合っていない。
- ・ワイヤーメッシュ本体や支柱などは、経年劣化による強度の低下は見られなかったが、結束に使われていたビニール被覆線や結束バンドは錆などにより、外れている箇所が確認された。



山中に設置したワイヤーメッシュ柵



鉄筋棒による修復跡



斜めに立てかけた補強例

## 取り組み内容

### ワークショップ① 現状把握と方向性の確認

- ・これまでの対策で、知識や経験が十分にあることから、現状と今後の方針の確認作業を行なった。
- ・生息環境に囲まれた場所にあるため、環境整備によって鳥獣が寄りにくい環境にするという対策は現実的ではないことから、ワイヤーメッシュ柵の改善計画を中心に進めることに。



ワークショップの様子

### ワークショップ② 改善ルート案の作成



ルート案の作成

### 設置ルートの検討

- ・ワークショップで作成した地図をもとに設置ルートの検討。
- ・既に、柵の内側になる予定のクリの木が伐採されているなど、設置ルートに合わせて必要な部分の環境整備が進められていた。



伐採されたクリの木



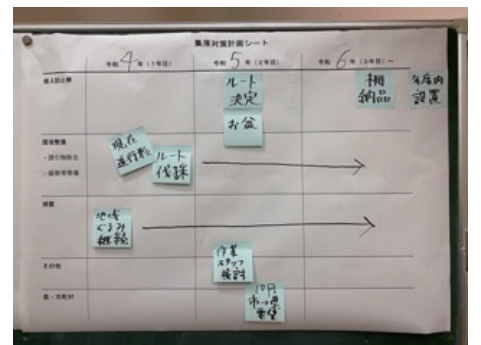
設置ルートの検討

### ワークショップ③ 対策計画の作成

- ・ワイヤーメッシュ柵で、合計 13km 以上の設置計画に。
- ・令和 6 年度の設置に向けたスケジュールを、表を用いながら住民と仙台市で確認した。



全体計画図（図中の距離は地形の起伏などを考慮していない）



スケジュールの確認

## 成果と取り組みのポイント

### ❏ 地域の状況に合わせた対策バランスの選択

効果的な鳥獣被害対策に取り組むためには、「被害防除」「環境整備」「捕獲」を総合的に組み合わせることが望ましいとされているが、地域の環境や労力負担に合わせて、効果が期待できる対策を優先するという考え方もある。

### ❏ 更新計画のスケジュール

仙台市白木地区は、これから対策を計画していく地域ではなく、これまで対策を実施してきた中での改善点や集落状況の変化をふまえ、今後の効果的な対策計画を検討するという地域であった。今回のケースのように、更新の 2 年前から地域の更新意思の確認と改善計画を進めるというスケジュールが理想的である。